

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	栃 木
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	葛生町立葛生中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	14
生徒数	64	69	70	2	205	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「自ら学ぶ人の実現」の実現 ...一人一人の満足感を高める指導法の工夫・改善と 学習環境の整備を通して...</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・全教科 知識・技能の習得にとどまらず、学ぶ意欲や学習方法を選択する力などの「自ら学ぶ力」をもつ人を育てる必要性から、少人数指導の実績のある数学科を中心に全教科で協力して「学ぶ意欲」という学力に焦点を当てて『確かな学力』の向上を目指そうとするものである。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

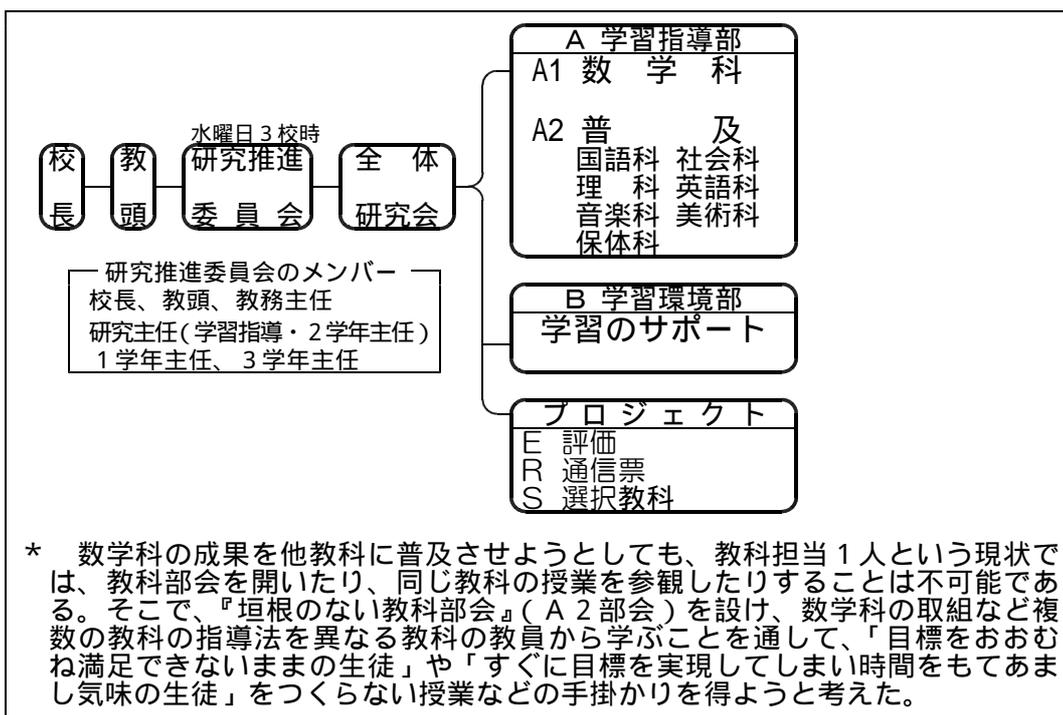
平成14年度	<p>テーマ 数学科を中心とした理解や習熟の程度に応じた指導方法・指導体制の工夫改善 研究の見通し 数学科でアンケートやテストを利用して2学級を3コースに分ける少人数指導を継続して行うことを通して、「自分に合った学習方法を選択する」きっかけをつかむことができるのではないかと。 研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が自分の力を正しく判断してコースを選択できるように工夫する。 ・ 少人数指導の指導方法の蓄積をする。 ・ 生徒の意識や学力などの実態把握と分析を行う。 ・ 基礎学力としての読解力を高める読書を行う。 ・ 情報の共有化 * 先進校や学習塾に学ぶ - マネージメント・システム - 講話 『子どもたちの学習意欲を高めるための指導方法について』 講師 (株)開倫塾 社長(塾長) 林 明夫氏
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 一人一人の満足感を高める指導法の工夫・改善と学習環境の整備 研究の見通し(仮説) 生徒の自己理解の深化を図る手だてや教師の指導法の工夫・改善及び学習環境の整備を進めることによって、一人一人の『満足感』が高まり、自ら学ぶ力と確かな学力が身に付き、「自ら学ぶ人」の実現が図られるであろう。 研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら学ぶ意欲を生徒が判断するとともに、教師の指導法に対して「分かった、できた、がんばった、がんばろう、仲間と協力できた」などの意識をもてたかどうか振り返る指標として、『満足感』という指標を設
--------	--

	<p>定することにした。日々の授業を実施するごとにこの指標を振り返らせ、表していくことで、満足感を高める指導法の工夫や学習環境の整備が、生徒の内面に『満足感』をもたせることに効果があったかどうか評価しつつ研究を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導法の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> * 数学科 <ul style="list-style-type: none"> 「満足感」を高める効果的な学習コースの設定 各コースの特色づくり <ul style="list-style-type: none"> ベーシックコース ゆっくり理解して身に付ける授業 エクストラコース 時間をもてあまさない授業 アドバンスコース 両方の手法 数学科部会の開催 * 他教科 <ul style="list-style-type: none"> 「垣根のない教科部会」の開催 数学科の取り組みなど、異なる教科の教員から学ぶ 一生懸命活動でき、満足感が高められる授業 * 学習カード <ul style="list-style-type: none"> 全教科で「学習カード」を共通使用し、生徒の理解や満足度を通して学習活動を分析する。それを個に応じた指導に生かす。 ・ 学習環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> * 時間割の工夫 『ノーチャイムで学習』 * 学習室の整備 <ul style="list-style-type: none"> 数学科のコース専用学習室と助け合い学習のためのフリー学習室の整備運営 * 朝の読書 午前8時10分から15分間
--	---

平成16年度	<p>テーマ 一人一人の満足感を高める指導法の工夫・改善と学習環境の整備 研究の見通し(仮説) 生徒の自己理解の深化を図る手だてや教師の指導法の工夫・改善及び学習環境の整備を進めることによって、一人一人の『満足感』が高まり、自ら学ぶ力と確かな学力が身に付き、「自ら学ぶ人」の実現が図られるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導法の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> 「満足感」を高める指導法の研究 発言力を付けるなど学習集団の共通指導 学習カードの定着と改善 * 特に数学科では <ul style="list-style-type: none"> 「満足感」を高める効果的な学習コースの設定 各コースの特色づくり・教材開発 ・ 学習環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 学区内小学校への情報提供 家庭の協力を得て、生活習慣の改善を働きかける
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

学習指導法の工夫改善

- 『満足感』という指標を取り入れて、生徒の自己理解や教師の指導法に焦点を当てた実践研究を数学科を核に全教科で進める研究体制が整ってきた。
- 数学科では各コース(習熟度別コース)の特性を生かした学習法と指導法が、他教科では生徒が一生懸命活動でき、満足感が高められるような指導法が、明確にできるようになってきた。
- 『学習カード』の生徒の評価を教師がすぐに指導法の改善に生かすことにより、教師と生徒の信頼関係が醸成され、『学習カード』が教師と生徒の相互により影響をもたらした。

学習環境の整備

- 「朝の読書活動」については、時間を守って静かな雰囲気の中で取り組んでいた。新聞を読むのを取り入れたところ、生徒には大変好評であった。
- 「ノーチャイムで学習」については、ほとんどの生徒が時計を見ながら行動でき、意識付けには高い効果が感じられた。

2. 今後の課題

学習指導法の工夫改善

- 各教科で授業中にどのような働きかけをすることによって満足感を高めることができるかの実践記録を積み重ね、教師の指導技術を高めていく必要がある。
- 相互授業参観の回数を増やしたり、小学校の指導法を取り入れたりするなど、教科の枠を超えた指導情報の共有化を一層図り、生徒が一生懸命に活動する指導法や個に応じた指導の手だてを普遍化していきたい。
- 同じ生徒に対する個に応じた指導を複数の教科で連携を図りながら行い、効果を高める必要がある。
- 教師が学習目標・評価規準・教材の分析を十分に行い、分析結果を生徒が先を見通してより主体的に学習に取り組める形での生徒への提示方法を検討してみたい。

学習環境の整備

- 「家族参観日6月15日(日)」や保護者会を利用して学力向上フロンティア事業の啓発を行ったが、学力の向上には家庭(生活習慣)の協力が不可

欠なので、来年度は家庭を巻き込んだ協力体制を検討してみたい。

学力把握のための学校としての取組

- 数学科学習コース希望調査
- ・〔調査の目的〕
生徒がより自分に合ったコース選択ができたり、コース担当教員の授業の反省と改善につなげることができたりするため。
 - ・〔調査の時期、回数〕
単元を振り返る質問を設けた調査を章の終了ごとに行っている。
 - ・〔調査結果及びその活用〕
コース別学習集団の編成
教研式標準学力検査
 - ・〔調査の目的〕
1年生が小学校で学習した基礎・基本を確実に身に付けているかを調査するため。
 - ・〔調査の時期、回数〕
英語を除く4教科のテストを4月に1回行った。
 - ・〔調査結果及びその活用〕
「目標をおおむね満足できないままの生徒」や「すぐに目標を実現してしまい時間をもてあまし気味の生徒」をつくらない授業づくりに生かす。
ベネッセ版標準学力検査
 - ・〔調査の目的〕
生徒の基礎的な学力の定着の確認と指導法の改善のため。
 - ・〔調査の時期、回数〕
1・2年生を対象に5教科のテストを3月に1回行う予定である。
 - ・〔調査結果及びその活用〕
来年度の指導計画や指導方法（教材の分析・選択）の改善に生かす。
学力アップアンケート・読書意識調査
 - ・〔調査の目的〕
昨年度からの生徒の学習状況の変容を捉えるため。
 - ・〔調査の時期、回数〕
全学年を対象に2月下旬に行う予定である。
 - ・〔調査結果及びその活用〕
学習環境の整備や改善に生かす。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

第2年次公開授業研究会
日時 平成15年11月27日（木）午後1時から
場所 葛生町立葛生中学校
対象 安佐地区小中学校教員、教育委員会職員、保護者他
内容 全体会 研究概要の発表
研究授業 3年数学3コース 1年音楽
研究協議

研究成果普及のためのHP作成
<http://www.sunfield.ne.jp/~kuzuuchu/>
中間報告書の作成
葛生中学校（2003）：「文部科学省・栃木県教育委員会指定『学力向上フロンティア事業』第2年次 授業研究会 資料」p.36.
他県や他地区の希望校への中間報告書配布

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                     16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       数学                       理科  
                                  外国語                     音楽                       美術                       技術・家庭  
                                  保健体育                   その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無